

～人権が尊重されるまちをつくろう～

～身近な生活の中から学ぼう～

2024.2.21

第82号



人権・同和教育だより 丹波篠山

発行

丹波篠山市

人権・同和教育研究協議会

TEL・FAX 079-593-1260

http://t-s-doukyou-hr.jp

〒669-2734 丹波篠山市宮田240

丹波篠山市役所 西紀支所3F

年3回発行 6・10・2月

研究大会
報告

第25回 丹波篠山市人権・同和教育研究大会を終えて

大会テーマ：誰もが自他の人権を尊重し、自分らしく生きることができるまちづくり

2023年12月9日(土)丹波篠山市立田園交響ホールにて約300名の参加者で研究大会を開催しました。坂田かおりさん(部落解放・人権研究所理事/人権テイク・ルート代表)に基調講演をいただきました。



基調講演

誰もが輝いて生きるために(概略)

坂田 かおりさん(部落解放・人権研究所理事/人権テイク・ルート代表)



1. はじめに

鳥取県の国立公園大山の麓にある戸数約200戸の被差別部落で私は生まれました。生まれて100日目から母の従妹の養女として育ちました。自分が養女と知ったのは保育園の年長の時、この頃から私の居場所はありませんでした。私にとっての唯一の居場所は、地区でやっていた週一回の学習会でした。ただ、まだこの頃はなぜ学習会をしているのか分かりませんでした。

2. 部落問題との出会い

当時、私の部落に対する生活のイメージは、とても貧しいというものでした。しかし、私はそれほど貧しい生活をしていない訳ではありませんでした。つまり他人事だと思っていました。5年生のとき突然、同級生から「どこが部落か知っているか？」と聞かれました。私は隣の山裾の小さな村をさしました。そうすると同級生に「この村が部落だ」と言われ、初めて知り、とてもショックでした。なぜ生まれ育ったこの大好きな村が差別を受けているのか、本気で向き合うようになりました。それから中学生になり、被差別部落の仲間と差別を無くすため、様々な運動をしてきました。私の部落問題の解決に向けての基本はここにありま。

3. 突然出会う差別の現実

高校生のとき、部落差別発言を何回も受けました。それは当時、高校の同和教育の授業は小・中学校時代とかけ離れていて、ほとんど行われていなかったからです。そして、このことがきっかけで、鳥取県初の高校生による高校の糾弾会が行われました。

社会に出ても同じように差別を受けました。しかし、なかなか差別発言に対して間違っていると言えなくなってしまいました。会社でも「部落の人間と事故でもおこしたら、集団でおしかけてくる」、「部落の人は怖い」等、様々な差別発言を受けましたが、何も言わない方を選ぶようになりました。

4. 子育てと部落差別

31年前、娘が生まれたときに、分娩台の上でとても可愛かった反面、もしこの子が部落差別を受けたらどうしようという思いで、始めて差別は怖いと思いました。どうしたらこの子を守ることができるかとばかり考えていました。そしてずっと隠して生きてきました。

そんな中、私を変えた出来事がありました。私の娘が通う保育園に足が不自由な子どもとダウン症の子どもが通っていました。このことがきっかけで、娘たちには障がいのある子どもたちと育つことで、障がい者差別をしない子、そして部落差別を絶対にしない子に育てたいと思いました。

私には二人の娘がいて、娘が5年生と6年生になったころ、そろそろ部落問題を教えるてはいけないなと思っていました。そうしたら娘から「おばあちゃんって部落なの？」と聞かれました。なぜそう思うのと聞くと、「田舎だから」と娘は答えました。私は「おばあちゃんちは部落だよ」と答えました。娘は「おばあは差別をうけたの」とショックを受けたようでした。しばらくして、娘は「同じ命なのにどうして差別をうけるの？おかしくない？」と言いました。私は「いのち」に順位をつけていないこの感覚に、よかったと思いました。

その後、黙っていても何も変わらない事がわかりました。隠していくのではなく、同和地区にルーツをもっているも堂々とおかしい事がおかしいと当たり前と言えるため、同和地区生活相談員を引き受けました。

5. 小学校で伝えた「いのち」の大切さ

差別されたり、いじめられたりしてもよい「いのち」は、ひとつもありません。いまある「いのち」はすべて幸せになるためにあります。だから何処に生まれたか、何処にルーツをもっているか、障がいがあるかないか、男か女か、そんなことは一切関係ありません。みんなの「いのち」は間違いなく必要で、愛される誰かに出会うために生まれてきた「いのち」です。そうした「いのち」の大切さを20数年間、子どもたちに伝えています。

6. 結婚差別からみる部落差別

2016年に部落差別解消推進法ができました。私は相談員の仕事は辞めていましたが、2015年10月～2016年6月までに4件の相談をうけました。すべて結婚差別の相談でした。すべて人権学習を行ってきたはずの世代です。それなのに、部落差別が自分事ではなく、他人事としてしか思われていないのです。差別は差別する側の問題です。そして、被差別部落の人々はここに居るのに居ない事にされてしまうのです。

7. 最後に

差別はする側の不幸だと思っています。みんなたいていが「差別が悪いことは知っている。でも本音と建前は別」と言います。しかし差別があつて幸せなことなど、ひとつもありません。誰もが幸せに生きるために、それぞれの「いのち」を認め合ってみませんか。

【参加者の声】

＊見ようとしないと見えないこと、気づこうとしないと気づけないこと、そんな力を教育で培うことが大切だと分かりました。

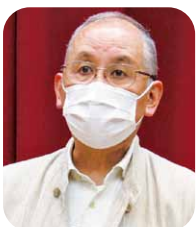
＊人権感覚は磨き続けないとすぐに鈍ってきます。今日は磨き直すことができたいい機会だったと感じています。実体験に基づく話は何よりの説得力でした。

＊自分のくらしの中で「それ、おかしいのでは？」と立ち止まって考える大人でありたいと思いました。

「人権・同和教育セミナー2023」より

第4回「部落差別の現状と人権教育・啓発の課題

ー部落差別をどう語り、どう伝えるのかー11月3日(金)開催



講師 石元 清英さん(関西大学名誉教授)

多くのデータをもとに、被差別部落の実態とイメージがかけ離れていることを示されました。また、ネガティブ(悲観的)で誤った人権教育が、ゆがんだ人権意識を生んでしまう危険性があり、被差別部落の歴史や現状を正しく伝える大切さも語られました。

そして、自分の権利を知ることや、あらゆる人権問題は「ひとごと」ではなく、自分の問題として、一人称で語る人権教育や啓発の重要性を述べられました。

【参加者の声】

●私は小学校教員をしています。部落差別で子どもたちに昔あった厳しさばかりを教え、事実を伝えられたかというかなり疑問です。今日学んだことをこれからの授業等に活かしていきたいです。

●誤解を生んだ学校教育、それに伴って差別も残っていくのではないかと改めて感じました。やはり、正しい知識を学ぶことが大切であると思います。

●データなどを示しながら分かりやすくお話しいただきました。自分の中にある誤った認識にも気づくことができました。他人事ではなく自分事として考えられるように研修を積み重ねていきたいです。

人権・同和学習を深める場として、一年間に5回の連続講座を企画しています。今回は第4回と第5回のセミナーの概要と参加者の感想を掲載します。

(第1回～第3回は前回の会報に掲載しています)



第5回「部落差別と女性差別の交差

ー部落女性の解放運動からみえる私たちの社会12月3日(土)開催



講師 熊本 理抄さん(近畿大学 人権問題研究所)

身元調査による結婚差別や就職差別などの事例をあげ、差別を社会的課題として語られました。そして二重三重の差別・圧迫や複合差別をうけてきた実態から、部落女性の戦後の運動について語られました。それが、教科書無償、保育所づくりなど、誰にとっても生きやすい社会になったことを解説いただきました。

【参加者の声】

●差別をなくしていくためには個人の変革だけではなく、社会を変えていくことが大切であることを学びました。また、差別を複合的に、交差的に見ていくことで新たに見える差別があることも分かりました。

●人権の学びは社会を変えていく。差別は心の問題で解決はできない。これからどういう社会を創っていくのか。次世代に繋げていくために常に学び続けたい。

専門部会研修会 各専門部会の研修会等を紹介します

セミナー参加 地域部会研修会

今年度の地域部会では、できる限り参加しやすいよう、また参加したい講座が選べるように、「人権・同和教育セミナー」の第2回～5回の中から選んで参加する形式にしました。

こうしたことで、より多くの市民の方々に参加いただき、部落差別を正しく知るといふ啓発につながったと思います。



10/20 学校部会研修会

テーマ「同和教育を学級づくりの柱に据えて」
～みんなが幸せに生きる社会をめざして～
講師：細田 亜矢子さん
(丹波市立青垣小学校 教諭)



【参加者の声】

- 同和教育をはじめ、人権の課題を解決するためには「当事者ではなく周囲を育てないといけない」ということばが心に残りました。
- 同和教育について子どもたちが正しく知っていくことはとても大切だと思います。差別や人を傷つけることなどに気づける子どもを育てていきたいと思いました。
- 「知らないから変わらない」現状を変えていけるのが教師だとすると本当に身が引き締まる思いがします。何気ない毎日を丁寧に、そして温かい思いで見つめる姿勢を大切にしたいと思いました。

11/9 保・幼部会研修会

テーマ「子どもの人権と不適切保育について」
～子どもの思いを大切にしたい保育～
講師：山縣 文治さん(関西大学 教授)

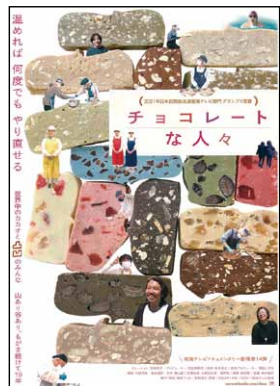


【参加者の声】

- 園内研修や今日のようない研修会があるからこそ、一人一人の意識付けができるのではないかと思います。自分の保育を見直すきっかけとなりました。
- 子どもの権利や条例、法律等、改めて知ることができました。
- 今、社会で話題になっている不適切保育について、とても興味深く拝聴することができました。日頃の保育を思い返し、言葉かけ一つや行動が本当によいものなのかを考え直そうと思います。

2/8 企業部会研修会

この研修会は障がい者部会・共生(仮)部会の研修も兼ねています。
【内容】映画「チョコレートな人々」上映



この映画は、心や体に障がいがある人、シングルペアレントや不登校経験者、セクシャルマイノリティなど、多様な人たちが働くことができる職場づくり、またその難しさや理想と葛藤するドキュメント映画です。決してきれいな事だけでは語れない19年間の事実が描かれていました。

しかし、この企業でいきいきと働く人々の姿は、多様性を理解しあう職場をめざす、ひとつの希望になったのではないのでしょうか。

年間 高齢者部会研修会

市内の各老人クラブや支部で、新型コロナ感染状況を鑑みながら取り組んでいます。

黒石長命会では「健康に楽しく長生きするためには」をテーマに寺本耳鼻咽喉科から寺本典代さんをお招きし、学習会を開催しました。

住民学習会と合同で開催している所もあります。様々な人権テーマで学習しています。



11/5 共生(仮)部会研修会

この研修会は丹波篠山市男女共同参画センター「フィフティ」開設1周年記念講演会と兼ねています。

テーマ「ぐちを言うより変えていこう」
講師：中川 智子さん
(丹波篠山市男女共同参画アドバイザー、前宝塚市長)

【参加者の声】

- 生活者目線で市政・国政へ関わって来られた中での実感がうかがわれ、親しみの中で講演を聴かせていただきました。
- 中川さんのお話は面白く、気づきもありました。ぐちをぐちで終わらせず、周囲をまきこんで解決に導くパワーを感じました。
- 政治が遠いものではなく、市民一人一人の思いを共有しあうことによって、少しずつ参画していけるものとわかりました。



12/4 障がい者部会啓発チラシ配布 12/24

障がい者部会では、障害者週間(12/3～9)にあわせ、啓発チラシを市内の9カ所で配布しました。

また12/24の市民センターまつりでも配布しました。

2020年からコロナ禍で設置形式にしましたが、今年度は4年ぶりに手渡しでの形式に戻し、当事者、関係者、市民の皆さんとのよい交流の場になったと思います。



1/21 PTA部会研修会

テーマ「コロナ禍における不登校の増加について考える」
講師：原 清治(佛教大学 副学長)

【参加者の声】

- 子どもとの接し方、改めて親としての見守り方を知る事ができてよかったです。
- 最近の状況、多方面からの切り口で、かつ、子どもの心の叫びやつぶやきにも寄り添うお話で大変勉強になりました。
- 子どもとの何気ない会話が大切だと思いました。子どもの発信するサインを見逃さないように見ていきたいと思いました。無理はしない、徐々に!を大切にしたいと思います。



これから予定している
研修会を
お知らせします

※宗教部会研修会

日時：3月7日(木) 13:30～15:00 テーマ：「くらしの中の人権」～生き生き人づくり街づくり～
講師：向井 祥隆さん(NPO法人いぬいふくし村 理事長) 場所：城東公民館 大会議室

※上記の研修会は気象状況等により中止や変更する場合があります

暮らしの中から

「輝く年に」

私自身にとっては、昨年父を亡くし悲しい時期がありました。しかし、大好きな阪神タイガースがプロ野球日本シリーズで阪神と南海が対戦した1964年以来59年ぶりとなるオリックスバファローズとの関西ダービーで、38年ぶりに日本一になり、とても勇気づけられ元気をもらいました。サッカーではヴィッセル神戸がJリーグ参入27年目でJ1初優勝を飾り、私だけではなく関西の人や全国の人が喜び元気づけられたのではないのでしょうか。

しかし、世界に目を向ければ2022年2月24日、ロシアによる「特別軍事作戦」と称するウクライナ侵攻以降、ウクライナでの民間人死者数が少なくとも1万人に達し、子供の死者数は550人以上に上ると報道されています。戦争は最大の人権侵害と言われるように、一般市民を巻き込んださまざまな被害に加え、特に子どもや高齢者、障がい者、支えを必要とする人々に、より大きなしわ寄せが生じています。

戦争は絶対に許されることではありません。この戦争が平和的に解決し、一日も早く終結することを願っています。

2024年元日には能登半島で最大震度7の地震。翌日には、羽田空港で大きな事故が発生。新年早々、心を痛める出来事が続っていますが、日本をはじめ世界中が輝く一年となればいいと思います。(中井慎太郎)

八上地区人権啓発の取組 ～あたたかいまちづくり八上をめざして～

八上地区では、八上地区自治会長会・八上校区まちづくり協議会が中心となり、4年ぶりの校区研究大会が開催されました。これまでに積み上げてきた人権への関心と理解をより高めるため、今年から「あたたかいまちづくり八上をめざして」をテーマに標語を募集し、この研究大会で発表されました。その中から選ばれた標語を紹介します。

【小学校児童の部 優秀賞】

- *「わたしの学校 明るいな楽しいな みんなもきてね 八上小」
近藤 瑠奈 さん(3年)
- *「木ぞう校しゃ 木のぬくもり みんなでいると 温かい」
増川 涼成 さん(4年)
- *「元気あふれるあいさつに 高城山のあたたかさ 笑顔をくれる 八上からのプレゼント」
北川 照貴 さん(5年)
- *「はなれていても きよりが縮まる 八上の温もり」
木下 紗那 さん(6年)

【地域の部 優秀賞】

- *「ふるさとを 愛する心で 人づくり」 長谷川 一男 さん
- *「人権は 心と心の 通い合い」 池田 正男 さん
- *「ひと声が 元気とやさしさ 連れてくる」 梶村 英子 さん
- *「高城の すそ野にひろがる 八上のきずな」 新家 秀子 さん
- *「笑顔であいさつ 地域の和と輪」 井関 裕子 さん

丹波篠山市同教 企業部会 会員募集中!

社員一人一人の人権が尊重され、元気に仕事ができる職場づくりのために是非ご加入ください。毎年、企業向けの人権研修会などを開催しております。

お問合せ先 丹波篠山市人権・同和教育研究協議会事務局
TEL・FAX 079-593-1260

編集後記

障がい者部会では、毎年、障がい者啓発チラシを手渡しで配布しています。しかしコロナ禍によって2020年から事業所や市の施設などで設置し、取っていただく方法にしました。今年度は部員と深く協議し、4年ぶりに手渡しの配布に戻しました。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行しましたが、まだまだ手渡しに抵抗があるかと心配していました。ところが、あいさつをしながら一人一人に手渡しすると、「ありがとう」「頑張ってくださいね」等、お声かけいただく事もありました。人とのふれあいのあたたかさを改めて感じた啓発活動でした。